

TOSS のラグビー教育の歩み since2015 to 2023
当初、ラグビーのことを知っている人はほとんどいなかった。

特定非営利活動法人 TOSS

水川 勝利

(みずかわ かつとし)

本誌 21 ページではとても伝えきれなかった
水川勝利氏の、“熱い”原稿の全文を
ご紹介します！

日本列島がラグビーワールドカップの熱狂の渦に包まれた。日本の美徳が世界中に発信された。全国の小学校や公園でラグビーごっこを楽しむ子どもたちが急増している。夢見た光景が現実となっている。自分より強大な相手に対して前へ前へと果敢に立ち向かい、“ワンチーム”で劇的勝利を重ねた日本代表の活躍が世界にセンセーションを巻き起こし、日本国民の心をも“ジャッカル”...いや、掴んだ。台風 19 号の被害も受けた大会を支え続けた組織委員会や自治体、ボランティアの方々の奮闘により、アジア初開催の今大会はラグビーワールドカップそのものの価値を高めたグランド・ブレイキングな大会になり、世界のラグビーを統括するワールドラグビーの会長は「最も偉大なW杯として記憶に残る。日本は開催国として最高だった」と賞賛し、大会は大成功のうちに幕を閉じた。

TOSS もオールジャパンの一翼として大会の認知向上とラグビーの教育的・道徳的価値を広める「ラグビーワールドカップ 2019™推進教育事業」を 5 年間実施してきた。2014 年に鈴木俊博プロデューサーと向山代表の発案を受け、RWC2019 組織委員会の西阪昇事務総長代理が委託して下さったおかげだ。そして全国各地の先生方の多大なご尽力があったからこそ当事業は実施できた。感謝の念で一杯だ。

ラグビーを通じた児童の人間形成を目的にして教師向けセミナーの開催、子ども観光大使のラグビー版である「ラグビー子ども交流大使」の実施、テキスト等を用いた授業の実施だ。

事業開始は 2015 年のイングランド大会で日本が南アに勝利しラグビーブームが起きる前だった。5 年間でセミナー開催 52 会場、参加人数およそ 9 千人。2016 年 9 月 19 日の「ラグビー子ども交流大使 全国一斉 17 会場」開催等を加えると 70 会場以上を数え参加者数 9 千 3 百人。後援数 363 件、メディア取材及び協力は 73 件。ラグビーテキスト配布数はおおよそ 17 万冊。全国小学生の 2.6% に授業を実施した計算だ。セミナーの特別講師はラグビー界のレジェンド故・平尾誠二氏や坂田好弘氏、林敏之氏はじめ 48 名以上の方々が引受けて下さり、珠玉の話の数々は学級経営にも参考になるものばかりだった。

2015年、セミナーは6月の静岡会場を皮切りに長野、大阪、北海道、神奈川、愛知、東京、沖縄、香川、熊本、広島、岩手、兵庫、大分、福岡、埼玉の16会場で開催。参加者合計2,501名。TOSSランドにラグビーの授業コンテンツ12件と指導案37件をアップ。

セミナー10会場目の広島会場の前日にW杯イングランド大会が開幕。翌日、日本代表が初戦、強豪南アフリカを撃破する快挙を成し遂げ、海外メディアから「スポーツ史上最大の番狂わせ」と報じられ、日本が、世界が、興奮し一気にラグビーブームが巻き起こる。

2016年、セミナーは東京、福岡、北海道、愛知、岩手、大阪、静岡、兵庫の8会場、「ラグビー子ども交流大使」は3会場。参加者合計1,965名。

ラグビーテキストを制作し、学校現場での授業実施数が飛躍的に向上。児童2万人への授業を目標に掲げ、4万人以上に授業を実施。テキストに2020年東京オリンピック・パラリンピック種目である男女7人制ラグビー、ウィルチェアーラグビーも掲載。

2017年は静岡、岡山、福岡、愛知、岩手、神奈川、大阪、長崎、北海道、山梨、千葉、広島、奈良、長野の14会場。参加者合計2,001名。

テキスト2017年度版から2015年大会の日本対南ア戦の公式動画の使用許可を得る。子どもたちへの訴求力が格段に向上。10万冊突破。

2018年のセミナーは宮城、栃木、京都、山口、佐賀、長野、茨城の7会場。参加者合計725名。

ラグビーテキスト配布数、累計14万冊突破。

2019年セミナー全国大会を東京で、「ラグビー子ども交流大使」全国大会を兵庫で開催。参加者合計1,285名。改訂版テキストはデジタル化もされ、特別の教科 道徳対応、英会話ページ等が追加される。テキスト配布数、累計16万8,526冊を突破。

——2019年は折り返し地点、ブームから文化へ！これから真価が問われる——

2015年に西阪昇事務総長代理のイングランド大会視察に同行し、ワールドラグビーとイングランドラグビー協会から当事業へのアドバイスを次のように得た。「2019年は折り返し地点だ。これからが本番だ。本当に真価が問われるのは大会が終わってから次の大会(2023)までの4年間だ。」

また大会終了後の11月5日には萩生田文科大臣が「ラグビー人口拡大へ年内にも検討の場を」と発表された。「国民がラグビーの面白さを理解し始めている。大会のレガシー(遺産)を消さないよう、将来必要なものについて広く議論する」とのことだ。政府も動く。

熱し易く冷め易い日本国民の気質を乗り越え、ラグビーブームから文化として根付かせる事に挑戦する時が来た。

9月20日に日本大会が始まってからも多くの先生方が授業をしてくださった。児童の感想のなかには大会中にも関わらず「テレビでラグビーが盛り上がっているけど興味なかった」、「ラグビーはいっさいきょうみもなくルールもしらなかつたけど、」と始まる意見が散見された。しかし授業を受けて「このテキストを見て興味を持った」、「ラグビーの精神やルールがよく分かった。人生に活かしていきたい。」等変化が起き、テレビ等のメディアではリーチできない層にもラグビーの持つ価値を直接伝えることができた。

今、西阪事務総長代理から新たなレガシー（未来への遺産）版のテキスト作成の依頼を頂いている。今大会の様々な美談を盛り込んだテキストでの授業実施、多様な体格のどの子ども活躍できるタグラグビーの実践を更に増やすこと等でラグビーの価値を文化として根付かせることに貢献できるはずだ。

「勇気、主体性、チームワーク、仲間との絆、最後まで諦めない心、フェアプレーの精神 One for All, All for One、No side の精神。」これらは児童の感想に書かれた言葉だ。

想像して下さい。多くの子どもたちがこれらを身につけ成長した未来を。

我々の主体性を更に発揮し、共に教育界のレガシーを創ろうではありませんか！